

別冊 1

令和 4 年度

事業報告

社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会

— 目 次 —

【ページ】

《 第9次地域福祉推進計画 令和3(2021)年10月～令和10(2028)年3月 》	1
1. 重点的な取り組み（事業計画における3つの取り組み視点）	
○ 新型コロナウイルス（新型コロナ）を乗り越える新たな活動展開	2
○ 住民として暮らし続けるための取り組み	3
○ 共創による共生のまちづくり活動展開	4
2. 主要な事業の取り組み	
○ 推進目標Ⅰ <さまざまな個人・団体等とすすめる地域福祉活動の推進>	5
○ 推進目標Ⅱ <権利擁護・総合相談支援体制の推進～住民として暮らし続けるためのしくみづくり>	8
○ 推進目標Ⅲ <地域や人への思いを育む土壌を広げる>	13
○ 先導的取り組み <「共創」による「共生のまちづくり」の拠点づくり>	15
○ 重点取り組み <子どもたちと共に創り出す「共生のまち」>	16
○ 関連推進事項 基本事業	17
基盤整備事業	19

《 第9次地域福祉推進計画 令和3(2021)年10月～令和10(2028)年3月 》

令和5年度の事業は「第9次地域福祉推進計画」(以下、第9次計画)に沿って実施しており、本事業報告(2. 主要な事業の取り組み)は第9次計画の体系に概ね沿った形で取り纏めています。

地域福祉目標

“つながる” “認め合う” “話し合う” あなたと共に創り出す「共生のまち」
～ 共創による 共生社会の実現へ ～

第9次地域福祉推進計画体系表

○推進目標Ⅰ さまざまな個人・団体等とすすめる地域福祉活動の推進

- 1 住民主体の活動推進
- 2 当事者主体の活動の推進
- 3 多様な個人や団体との連携強化
- 4 第9次地区福祉計画づくり

○推進目標Ⅱ 権利擁護・総合相談支援体制の推進～住民として暮し続けるためのしくみづくり～

- 1 社協内総合相談支援体制の推進
- 2 包括的相談支援体制づくりにむけて

○推進目標Ⅲ 地域や人への思いを育む土壌を広げる

- 1 学び合う機会を広げる
- 2 土壌づくりをすすめる人を広げる
- 3 伝える力・受け取る力の強化

○先導的取り組み 「共創」による「共生のまちづくり」の拠点づくり (推進目標Ⅰ～Ⅲの横断的取り組み)

○重点取り組み 子どもたちと共に創り出す「共生のまち」

- 1 子どもたちの声を地域づくりへ、子どもたち自身が地域づくりへ
- 2 子どもたちのSOSを見逃さない地域へ、子どもたちがSOSを出せる地域へ

1. 重点的な取り組み（事業計画における3つの取り組み視点）

新型コロナウイルス（新型コロナ）を乗り越える新たな活動展開

<p>取り組み視点</p>	<p>① 人と人とのつながりの再構築にむけた活動の工夫 ② つながりづくりや業務推進のためのICT（情報通信技術）の活用や環境整備 ③ 多様な情報発信方法の活用と情報を受け取る権利を守るための取り組み</p>
<p>評価・課題</p>	<p>① コロナ禍により制限、休止されていた地域活動について、地域活動者との話し合いの場を大切にしながら、つながりの場の再開をめざした支援を行った。ふれあい・いきいきサロンについては感染対策を講じながら35地区で実施、前年度より約3倍の実施回数、参加があった。食事を伴う「昼食会」や参加者が一堂に会する「敬老のつどい」については、配食形式や分散して実施するなど、さまざまな工夫を行いながら実施する地区が多くみられた。</p> <p>また、新型コロナをきっかけに、家に閉じこもりがちになったり、地域活動やボランティア活動をやめていく個人やグループが増えてきた状況の中で、外に一步出てこれるような場づくりやもっと気軽にできる活動などの企画・実施に努めた。生活困窮者自立相談支援事業の中で当事者グループ「ゆるラボ」や市社協ボランティアセンター（市社協VC）での「ちょいボラ」など、ゆるやかに参加しながら地域や人とつながりをつくる取り組みについては、今後も地域での展開実施を考える予定である。</p> <p>② ICT（情報通信技術）については、総合福祉センターのWi-Fi整備、新型コロナに対応しながら各種会議や研修会のオンライン実施、青葉園・ふれぼので障害のある人が密を避けながら行う取り組み等に活用した。また、「地域のつどい場」では高齢になって来れなくなった人ともつながり続けられるために活用を開始したり、音楽や人形劇などを施設等へオンライン配信するなど、コロナ禍で整備したオンライン環境については、今後も時代に応じた活用方法を模索していく。</p> <p>③ 市社協のホームページでのブログ掲載や各課・係単位でLINEを活用しながら多世代にむけた情報発信をおこなってきているが、誰もが情報をタイムリーに受け取ることができる状況までには至っていないため、市社協全体としての広報や情報発信の取り組みを今後も検討予定である。</p>

住民として暮らし続けるための取り組み

取 組 み 視 点	① 誰もが参加・参画できる地域づくり ② 圏域チーム化による支援体制の構築（地域支援と相談支援の「のりしろ支援」） ③ 社協内組織再編による権利擁護・総合相談支援体制の実体化
評 価 ・ 課 題	<p>① 誰もが単に参加できる場を増やすだけでなく、役割と居場所のある場づくりをめざしながら活動に取り組んだ。地域住民誰もが集える常設の拠点である「共生型地域交流拠点」については、地域住民や法人等と協働しながら新たに2カ所（南甲子園地区・浜甲子園地区）の立上げを行い、現在、市内7カ所（新規地区+鳴尾東地区・今津地区・安井地区・春風地区・西宮浜地区）で住民同士のつながりの場として運営されている。「共生型地域交流拠点」では、拠点が活動する地域にむけた活動展開を重視しており、例えば、地域共生館ふれぼのでは地域内の高齢化がすすんだ公営住宅で出前カフェを行うなど、さまざまな工夫をしながら活動をすすめてきている。</p> <p>また、地域で暮らす若年性認知症、難病などの当事者、家族、ボランティアや専門職等がつながる場づくりも当事者の声を聴きながら継続して行った。「はたらく」体験をおとして地域に一步ふみだすことができるような取り組みとしてとして、くらし相談支援センター「つむぎ」と障害者就労生活支援センター「アイビー」が連携しながら「JOBきち」を創出した。それらの場づくりについては、社協内外の部署や団体等と連携しながらすすめてきており、今後も一人ひとりが地域の中で役割や居場所をもって暮らししていく視点やサポートが必要である。</p> <p>② コロナ禍で生活が苦しくなっている方々が増えている状況の中で、新たな食支援の取り組みとして「にしのみやつながるフードパントリー（無料食材提供会）」を実施した。実施にあたっては、市民や団体、企業等からの余剰食品の寄付に加えて、市内5カ所での提供会を大学生ボランティアや子ども食堂、企業等の協力を得ながら実施した。社協内においても圏域チーム化を意識しながら、圏域の地域支援部署と相談支援部署が連携しながら取り組みをすすめた。今後は、これらの活動を検証しながら圏域チームの活動や在り方（職員配置等）について整理していく。</p> <p>③ 市社協の組織体制を再編成し、共生のまちづくり推進課に地域支援部署である地域支援係（生活支援コーディネーター）と相談支援部署である障害者総合相談支援センターとを同一課として位置づけ、圏域の中で連携しながら活動展開できるように取り組んだ。併せて、社協内の総合相談支援体制をすすめていくために包括的相談支援体制推進担当を置くとともに、国の重層的支援体制整備事業に具体的に取り組むことについて市との協議をすすめ、令和5年度より重層的支援体制整備移行準備事業を市と協働しながら取り組むこととなっている。</p>

共創による共生のまちづくり活動展開

取 組 み 視 点	① 共生のまちづくり実践を展開する拠点の整備 ② 子どもの声を反映しながら諸団体と共に取り組む地域づくり ③ 地域の学びの機会を育み、共に地域づくりをすすめる仲間づくり
評 価 ・ 課 題	<p>① 北部拠点については、コープこうべとの協働によりJA（農協）の空き店舗の活用についての協議を開始した。次年度以降、青葉園・ふれぼのの通所者や地域住民が一緒に創り出す居場所についての在り方の検討をすすめる。</p> <p>また、これまで地域住民と職員との合同ワーキングで活用を協議してきた西波止会館についても、コロナ禍で開催できなかった地域向けイベントを次年度に開催する企画をすすめている。</p> <p>② 地域自立支援協議会や地域団体と話し合いをかさねて、安井地域における「ごちゃまぜ縁日」を開催した。コロナ禍で子どもたちが参加するイベントが減っている中で子どもたちが楽しめる企画と障害理解をあわせた企画とし、開催にあたっては地域内の企業や福祉施設、事業所等の協力を得ながら開催したが、子どもの声を反映するところまでは至っていない。また、社会的な課題である「ヤングケアラー」については、社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットにしのみや）やNPO法人等と連携しながら職員研修やアンケート等を実施したが、具体的な取り組みについては今後の検討課題である。</p> <p>③ 「認知症サポーター養成講座」や「あいサポーター養成講座」など、コロナ禍で実施機会が減っていた講座等についてもできるだけ身近な場所で学べるように取り組んだ。市民向けの学びの機会として「みやっこ学びラボ」については、子育てしながら始める取り組みの活動紹介などをおして、学びから実際の活動への参加につなげるような工夫を行った。</p> <p>また、地域づくりをすすめる協働者として、あらためてコープこうべやライオンズクラブとの協定を締結した。今後も引き続き、さまざまな地域活動展開で協働していく。</p>

2. 主要な事業の取り組み

◇印：地域と市社協が協働で進める事業

◆印：主に市社協がすすめる事業

推進目標Ⅰ <さまざまな個人・団体等とすすめる地域福祉活動の推進>

◇ 地域に参加する・出会う機会づくりの推進～つどい場・共生型地域交流拠点等の活動展開～
共生のまちづくり推進課・地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①つどい場の活動支援	①・交流会の実施：2/6 68人 [38人] トークライブ（事例発表）、グループトーク コープこうべ・関西学院大学社会学部 関嘉寛ゼミと協働開催 ・相談対応（立ち上げ、広報、助成金等に関する相談）：14件 [20件] 個人の相談に加え、民間事業所（店舗等）や福祉事業所からの相談が多かった。 ・開設助成：2団体 [2団体] 地域で長くボランティア活動されていた方が「つどい場を作りたい」という 思いで立ち上げた活動等、2団体が開設助成を活用した。
②共生型地域交流拠点の 活動推進	② 新規2カ所（南甲子園・浜甲子園）[0カ所] 合計：7カ所[5カ所（鳴尾東・今 津・安井・春風・西宮浜）]新しく拠点に関わる方を中心に、事業の目的や拠点 運営者の役割等を学ぶための「拠点運営者研修および拠点ツアーを実施
③地区社協との協働事業 の実施	③「こうろえん居場所トーク」（香櫨園地区社協との協働事業）：4/16 9/10全2回 延べ37人 [全2回 延べ47人] ゲストトーク・グループトークを実施
④ふれあい・いきいきサ ロンの再開支援	④ 実施地区35地区 [28地区] 他地区の実施状況や感染症対策の情報提供をしながら、ふれあい・いきいきサ ロンのコロナ禍からの再開支援を行った。

◇ 日常生活での見守り活動の推進 地域福祉課・共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①「あんしん・支え合い会 議」「見守り会議」のモデ ル実施	①・「あんしん・支え合い会議」：地区VC検討会議で目的やその効果などを議論し たが、モデル実施には至っていない。 ・「見守り会議」：甲子園口6丁目市営住宅6回（概ね隔月1回）[4回] 住民交流イベントの企画・振り返り、最近の住宅の様子について
②公営住宅での居場所づ くり等	②・甲子園口6丁目市営住宅：住民交流イベントの開催 2回開催（5/22）37人（3/16）25人 [1回] ビンゴゲーム、介護予防体操などの実施 ・岡田山市営住宅：地区社協の支援等により集会所を活用した交流活動を実施 ひろばカフェ 44回 299人 [5回 48人] 手作りサロン 10回 117人 [7回 88人] いきいき体操 41回 632人 [18回 292人]
③高齢者見守り事業の推 進	③・登録事業者：125 [116] 年間報告件数：32件 [21件] ・見守り意見交換会：12/12 11人 [未実施]
④あんしんキットの配布	④ 地区担当職員等が、希望する地域住民に地区社協や担当する民生委員・児童委 員等を通じて随時配布した。全市域に向けた効果的な配布・活用の協議には至 っていない。

◇ 地区ボランティアセンター(地区VC)の支え合い拠点機能の拡充

地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容(実施日・参加者数他)等 []は前年度実績
①地区ボランティアセンター検討会議の設置	① 地区社協や地区ボランティアセンターの活動者と今後の地区ボランティアセンターについて協議を行う検討会議を設置した。全2回 [新規] 第1回(12/14) 協議内容:各地区ボランティアセンターの現状について 第2回(3/20) 協議内容:検討会議のすすめ方について、グループトーク

◇ NPO法人等の多様な主体との地域づくりにむけた連携推進

共生のまちづくり推進課・地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容(実施日・参加者数他)等 []は前年度実績
①にしのみやつながるフードパントリー(食支援)の実施	① 5カ所で分散実施 2日×2回 延べ424人 ①9/25・10/1②2/4・2/5 [新規] コロナ禍で生活ニーズを抱える世帯へつながる取り組みとして全市型のフードパントリーを企画。コープこうべをはじめNPO法人、企業等8団体と協働実施することで多様なつながりが生まれた。
②団体等と協定締結	②・コープこうべ「包括連携協定」の締結(1/30) ・西宮市とライオンズクラブ「災害時におけるボランティア支援に関する協定」の締結(3者協定)(2/20)
③多様な主体との連携	③・若者応援BANKへの参画:若者を応援するプロジェクトでのブース出展 ・地区ネットワーク会議へのNPO法人等の参画へ働きかけ:防災などをテーマとしながら共生のまちづくりについて協議を行った。

◇ 在宅認知症高齢者介護者等支援事業

地域福祉課・共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容(実施日・参加者数他)等 []は前年度実績
①認知症サポーター養成講座の開催	①・市社協主催 7回166人 [9回98人] ・依頼による開催 79回2,354人 [41回1,035人]
②キャラバン・メイトの育成	②・キャラバン・メイトスキルアップ講座:1回33人 [コロナ禍による未実施] 西宮版副読本の紹介および交流 専門職メイトと市民メイトに分かれてグループをつくり、共通する悩みや講座で工夫していることを共有し啓発活動の大切さを共有した。
③認知症サポーターステップアップ講座の開催	③ 認知症サポーターステップアップ講座:全2回4人 [全5回21人] 今年度は「若年性認知症交流会わかみや会ボランティア養成講座」に形を変えて開催。受講者のうち3人はボランティアとして継続して活動している。
④認知症カフェの立ち上げ・活動支援	④・新規立ち上げ:なし [なし] ・認知症カフェ交流会:1回 [1回] 10カ所中8カ所のカフェが活動を再開した。立ち上げて間もないカフェについてはボランティアミーティング等で運営支援を行った。
⑤若年性認知症交流会「わかみや会」の活動支援	⑤・本人活動日:月1回全12回 [11回] 延べ166人 [119人] うち本人(若年性認知症)延べ44人 [3人] サイコトークや施設のふきとり布づくり、レクリエーション ・本人・家族交流会:月1回全11回 [10回] 延べ94人 [66人] うち本人家族参加延べ65人 [42人] 家族同士の交流、本人ミーティング、アルバム作り 特に、若年性認知症のご本人が社会の一員として役割が發揮できる場としてご本人の思いをゆっくり聞き、積極的な取り組みが行えるように工夫した。

◇ 当事者同士のつながる場づくり・組織化支援から地域とのつながりづくりへ

地域福祉課・共生のまちづくり推進課・くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①ヤングケアラーに関する取り組み	① NPO法人alittle、西宮市社会福祉事業団とヤングケアラーの現状課題や取り組みについて定期的に協議した。職員等を対象のアンケート調査を実施。
②地区懇談会（障害のある人と家族、地域住民で実施する懇談会）の実施	② 2地区4回 [3地区3回] コロナ禍によりオンラインで実施。他にも地区懇談会とは題していないが、地区懇談会の要素を含んだ活動を実施している地区や今後の地区懇談会の実施について検討している地区もみられた。
③若年性認知症交流会「わかみや会」が地域とつながる活動展開	③・定例会での本人活動の一つとして高齢者福祉施設で使用する使い捨てふきとり布づくりを行った。 ・「子ども向け工作イベント」実施 8/26 総合福祉センター 近隣の小学校に案内 参加者32人（子ども19人 大人13人）[コロナ禍による未実施] カフェコーナーでの接客や子どもたちと一緒に工作を通して社会参加の場を広げた。
④当事者活動支援と家族交流会の実施	④・発達障害者家族交流会6回 [1回] ・高次脳機能障害者家族交流会6回 [1回] メンバーの変更はあるが常時6～8名の参加があった。家族が就労や社会参加ができず家にひきこもり状態になっている本人との関係構築の難しさ、将来への不安など相談支援専門員も入りながらの交流会となっている。 ・当事者活動「のじぎく」の支援（西宮市手をつなぐ育成会と連携） 例会2回 [0回] 全国大会（オンライン）1回 [1回] 近畿大会（奈良同行）1回 [0回] 打ち合わせ1回 [0回] ・「難病カフェ」の実施（コープこうべ、難病連、健康増進課、市社協VCと連携） 2回 [1回] 打ち合わせ3回 [2回]

◇ 障害のある人が主体となる地域活動展開

青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①「青葉のつどい」（公民館）や「たけのこくらぶ」（北部地域活動）での活動展開	①・「青葉のつどい」（公民館） 神原 31回 [11回] 鳴尾38回 [10回] 鳴尾東36回 [20回] 若竹 34回 [11回] 瓦木9回 [5回] ・「たけのこくらぶ」（北部地域活動） 31回（5地区巡回型） [5回]
②障害者理解のための当事者主体の啓発活動	② 「on the way」のTシャツの販売、ストリートギャラリーへの作品展示、ホームページやブログを通じての啓発活動の実施。
③障害のある人（通所者）が主体となった実習生等の養成活動	③・兵庫県社会福祉協議会「障害福祉新任職員研修」に通所者および職員が講師として登壇（オンライン） ・あいさポーター養成講座のサポーターとして職員が通所者と共に登壇 ・トライやるウィーク、実習生の受け入れ 実習生：28人 148日 [12人 93日] 見学者：35人 [28人]

◇ 第9次地区福祉計画づくりと地区ネットワーク会議の機能転換と普及

地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①第9次地区福祉計画策定および推進	① 策定地区数：令和5年度3月末28地区 [5地区] 地区担当職員や生活支援コーディネーターが策定にむけて支援を行った。策定済みの地区については、地区社協の会議や地区ネットワーク会議を活用しながら、具体的推進方策が協議できるよう支援を行った。
②地区ネットワーク会議の機能点転換と普及	② 実施地区数：立上げ22地区中13地区実施 [22地区数13地区] 実施状況や課題把握を行いながら、機能転換と普及にむけてすすめる会議等で検討中である。

◆ 西宮市社会福祉法人連絡協議会の運営支援及び施設・事業所の社会・地域貢献活動の展開支援

共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①西宮市社会福祉法人連絡協議会の運営支援	① 総会、情報交換会、研修会、役員会開催を事務局として運営支援 職員交流会の新規実施、災害・防災に関する委員会を継続実施した。 加盟法人29法人[28法人]
②各地域での法人連携の取り組み支援	② 浜甲子園地域：浜甲トライアングル(円勝会・豊中ファミリー・豊中福祉会) 段上地域：段上施設連絡会(聖徳園・あまがさき武庫川園・阪神福祉事業団) 山口地域：山口施設連絡会(阪神福祉事業団・緑峯会・真心幸泉会・慈仁会)

推進目標Ⅱ <権利擁護・総合相談支援体制の推進～住民として暮し続けるためのしくみづくり>

◆ 相談のワンストップ化とのりしろ支援の展開 共生のまちづくり推進課 暮らし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①圏域チームによる地域支援	①・圏域チーム会議の実施 鳴尾圏域3回 [3回] 甲東・甲陽圏域5回 [2回] 中央圏域4回 [4回] 瓦木圏域5回 [2回] 北部圏域 ほくぶ会と連携して随時開催 [1回] ・個別のケース支援、地区社協活動の啓発・他団体とのつながり地域でのつながりづくりの活動支援、地区VCのコーディネーター会議への参加・支援
②「アウトリーチ機能」「コーディネーション機能」「ネットワーキング機能」「のりしろ支援」の体制強化	②・総合相談推進コア会議：5回 [7回] ・市社協内の7つの部署及び専門関係機関に連携課題や制度の狭間の課題についてヒアリングを実施
③社協職員および専門職の人材育成の取り組み	③ なんでも検討会議4回 [3回] 「断らない支援」を実現していくために、困りごとの解決や地域資源の開発等の技量を高めることを目的に実施。子どもをテーマに取りあげて中学生の生活状況や困りごとを感じ取る機会づくりのため中学校を訪問して実際に交流した。
④総合相談推進会議の開催	④ 総合相談推進会議：1回 [1回] 部課長と総合相談推進コアチームの職員で構成、進捗報告と今後の社協内総合相談体制の推進や外部機関、行政と連携した全市域総合相談支援体制方向性について協議をおこなった。

◆◇ 地域住民、各機関・専門職と連携した個別支援の展開

地域福祉課・共生のまちづくり推進課・くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①地区VCや地区社協等でキャッチしたSOSへの圏域チームによる支援（支援会議の実施等）	①・圏域チームとしての支援会議の実施には至っていない。 ・地区VCのコーディネーター会議に圏域チームのメンバーが継続参加・支援 1地区 [新規]
②地域における「相談のワンストップ機能強化」に向けたしくみづくり（協議の場の設置）	② 地域の相談体制づくりに向けて、子育てコンシェルジュ、社会福祉法人（児童）、地域包括支援センター（3カ所）の協力を得て、ヒアリングの実施。 また、3地域で各分野の専門職とNPO法人等の関係機関とSOSのキャッチの在り方や分野を越えた連携支援について協議した。
③社協内窓口の周知や、受けとめ断らない相談支援の実践	③ 地区社協の代表者会議において圏域チーム設置のチラシ等を配布し、周知を図った。
④生活支援コーディネーターや市社協VCによる地域住民と協働しながらの個別支援活動	④ 地域とのつながりが少なく、高齢でも障害などの分野を問わない世帯等への相談対応を地域住民と協働しながら行った。 ・生活支援コーディネーターによる個別支援件数：13件 [24件] ・市社協VCと地区VCの連携による支援件数（新規のみ）：6件 [19件] ・市社協VCと地区社協の連携による支援件数：3件 [3件]

◆ 生活困窮者自立相談支援事業の推進

旧くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①生活困窮者自立相談支援事業の推進	① 新規相談 208件 [204件] 特例貸付相談 619件 [2,995件] 継続 2,279件 [2,212件] ※特例貸付：R4年9月末終了 新規支援プラン 28件 [21件] 再プラン 31件 [16件] 厚生課・ソーシャルスポット西宮よりそいとの3者会議：4回 [新規] ヤングケアラーネットワーク会議等各種会議へ出席 新型コロナ特例貸付終了後も求職活動が思うようにいかず、経済的に厳しい状況の方からの相談が相次いだ。また、ひきこもり状態にある方の家族からの相談も継続的に寄せられた。
②当事者グループ活動「ゆるラボ」の実施	② 「ゆるラボ」 5回 [5回] 延べ参加者 19人 [18人] ゆるやかな当事者グループ活動「ゆるラボ」を実施。ベランダ菜園や歳末助け合い募金を活用した食料支援セットを作成
③多様な就労のイメージづくり「JOBきち」の創出と実施	③ 「はたらく」きっかけやイメージづくりをめざして、障害者就労生活支援センター「アイビー」とともに「JOBきち」を創出。作業については本会他課より切り出しを受けて実施：12回 延べ参加者 41人 [新規]
④3事業企画会議の実施	④ 11回 くらし相談支援課内において「お金」に関する相談支援を行っている3係が協働して、共通する課題について検討し、実践事例集を作成した。（単年実施）

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①基本相談支援（本人中心の相談支援）及び指定特定相談支援事業所へのバックアップ支援	<p>① 相談人数：1,762人（児童132人成人1,630人） [2,432人（児童116人成人2,331人）] 相談延べ件数：10,133件（児童624件成人9,509件） [8,728件（児童416件成人8,312件）] 複合課題を抱えた人や世帯全体への支援が増えたことで、一人の相談に複数のニーズ対応が求められた結果、相談延べ件数が増えている。また、家庭全体の支援に入ることで、相談者のうち、児童の相談が微増した。</p>
②西宮市の相談支援体制にむけた取り組み	<p>②・検討会の実施：2回〔新規〕（生活支援課課および北部窓口） ・打ち合わせ：2回〔新規〕</p>
③障害者虐待防止にむけた取り組み	<p>③・障害者虐待対応件数：22件〔16件〕 ・初動・コア会議：44件〔39件〕 ・事実確認：106件〔127件〕 ・解消のための支援：95件〔101件〕 ・事業所虐待について終結のあり方のマニュアル化</p>
④長期入院・入所者への地域移行支援への取り組み	<p>④・新型コロナにより入所施設や精神科病院における取り組みができなかった。精神科病院をはじめとする医療機関からの退院支援についてMSWや主治医、保健センターからの相談を受け実施した。 精神科病院については他法人が委託を受けている精神障害者地域移行推進事業精神障害者地域移行推進会議6回〔6回〕 事務局会議6回〔6回〕 ・支援者向けにむけた地域生活移行の「研修プログラム」の作成と研修会の実施 研修会1回〔新規〕（研修プログラム打ち合わせ4回〔新規〕）</p>
⑤地域自立支援協議会の運営と事務局	<p>⑤ 運営委員会：20回〔12回〕 総会：1回〔1回〕 報告会：1回〔1回〕 居住支援勉強会：1回〔2回〕 みんなの部会：22回〔21回〕 こども部会：33回〔75回〕 しごと部会：54回〔51回〕 地域生活移行連絡会：21回〔17回〕 あんしん窓口連絡会：26回〔26回〕 児童フォーラム：1回〔1回〕 事業所説明会：2回〔0回〕 ごちゃませ縁日・実行委員会・打ち合わせ：11回〔新規〕 年度途中より対面での実施となり協議が活発化してきている。一方で理念共有の難しさや運営的な課題も出ており、今後、協議会の方向性を検討していく。</p>
⑥人材育成（研修の実施と研修プログラムの作成）	<p>⑥ 他分野との連携強化、専門職としてのスキルアップを目的とし、他分野との関係機関と協働した研修の実施を行った。 ・相談支援初任者研修のインターバル期間の対応：10件〔新規〕 ・アディクション研修（厚生課・健康増進課・活動者・当事者の会） 定例会：2回〔2回〕 事務局会議：6回〔6回〕 打ち合わせ：3回〔0回〕 ・高齢・障害研修（生活支援課・在宅療養介護支援センター・地域包括支援センター・ケアマネジャー・指定特定相談支援事業所） 研修：3回〔3回〕 打ち合わせ：7回〔4回〕 ・こころの講座（健康増進課が実施する市民向け講座を協働実施） 研修：1回〔1回〕 打ち合わせ：2回〔2回〕 ・難病研修（健康増進課・難病連合会） 研修：1回〔新規〕 打ち合わせ：1回〔新規〕 ・行政合同研修（生活支援課：研修：2回〔1回〕 打ち合わせ：2回〔2回〕）</p>

⑦他分野の専門職や地域の活動団体とのネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止研修（生活支援課・法人指導課・市内事業所） 事業所向け研修（全体）：1回 [新規] 打ち合わせ：3回 [新規] 福祉事業所向け3カ所（個別）：3回 [2回] 打ち合わせ：3回 [2回]
⑧包括的支援体制にむけた取り組みと社協内連携	<ul style="list-style-type: none"> ⑦・各保健センター受理会議 北口：5回 [8回] 中央：2回 [4回] 鳴尾：5回 [2回] 保健センター合同：1回 [0回] ・ネットワーク会議 瓦木サポートネット：1回 [1回] 西宮浜ネットワーク会議：1回 [3回] 中央サポートネット：4回 [3回] ・つどい場、共生型地域交流拠点での出張相談・研修実施（5カ所）21回 [新規] ・医療と福祉の連携を協議するネットワーク「つながリンク」に参加
	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 相談支援部署と地域支援部署との相互連携による個別支援への対応および地域づくりをおこなうための体制を継続した。圏域チームで地域の社会資源やネットワーク状況、また地区福祉計画も共有しながら、地区VCや様々な活動団体と一緒に地域ネットワークづくりや若者の地域参加の促進等を行った。

◆ 障害者就労支援の強化

くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 []は前年度実績																								
①ライフステージに応じた切れ目ない就労支援	<p>① 相談件数：6,759件 [6,649件]</p> <table border="1" data-bbox="483 987 1394 1137"> <thead> <tr> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代～</th> <th>不明</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>508</td> <td>2,701</td> <td>1,757</td> <td>1,010</td> <td>557</td> <td>223</td> <td>3</td> <td>6,759</td> </tr> <tr> <td>[575]</td> <td>[2,564]</td> <td>[1,683]</td> <td>[1,058]</td> <td>[493]</td> <td>[260]</td> <td>[16]</td> <td>[6,649]</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度比約102%増加。特に20代、50代の相談者件数が増加している。 ・50代の相談者では、中途障害より退職に至るが、生活のため何かしら収入を得る必要があり、窓口相談に来られるケースが増えている。 	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	不明	合計	508	2,701	1,757	1,010	557	223	3	6,759	[575]	[2,564]	[1,683]	[1,058]	[493]	[260]	[16]	[6,649]
10代	20代	30代	40代	50代	60代～	不明	合計																		
508	2,701	1,757	1,010	557	223	3	6,759																		
[575]	[2,564]	[1,683]	[1,058]	[493]	[260]	[16]	[6,649]																		
②中間的支援研究・実施	<p>② 今年度から「くらし相談支援センターつむぎ」と連携し、「JOBきち」を12回実施。就労への第一歩を目標とした作業体験の場の提供。診断や手帳の有無関係なく、参加できるプロジェクトとなっている。</p>																								
③福祉施設との連携、一般就労への移行促進	<p>③ 就労達成者数：21件[22件]（うち福祉施設利用者：10件[10件]）</p> <p>事業種別を問わず、一般就労への移行を推進していく。</p>																								
④定着支援事業所と連携した定着率の向上	<p>④ 定着率96%[95%]</p> <p>定着支援事業所のみならず、関係機関と情報共有し定着支援を行っていく。</p>																								

◆ 日常生活自立支援（福祉サービス利用援助）事業の推進

くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 []は前年度実績
①待機者解消にむけた課題整理・支援体制及び具体的な解決策の検討	<p>① 年間相談件数：5,108件 [4,823件] 訪問回数：1,317回 [1,304回]</p> <p>契約者数：70人 [71人] 新規契約者：13人 [17人] 解約者：14人 [18名]</p> <p>待機者数：21人 [23名]</p> <p>待機者については年度末は前年とほぼ変わらず21人であるが、年度途中には11人まで減少し、待機期間も最短で4カ月まで短縮できた。</p> <p>相談件数は前年度比106%と微増。現在の利用者に係る相談件数が増えている。</p>
②生活支援員のスキルアップの取り組み	<p>② 生活支援員研修会：第1回11/30「意思決定支援について」第2回3/22「地域自立生活支援について」</p>

◆ 生活福祉資金貸付相談からくらしの支援へ

くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績																											
① 新型コロナ特例貸付の受付延長と償還事務に関する業務への対応	<p>① 新型コロナの影響により収入が減少した世帯に対し、令和2年3月より特例貸付受付を開始。度々受付期間が延長されたが、令和4年9月末に終了となった。並行して令和5年1月からの初回償還開始に伴う償還口座登録の手続きや、償還免除や猶予に関する問い合わせについて対応を行った。</p> <p>【R2.3.25～R4.9.30 貸付決定件数及び金額】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>緊急小口資金</th> <th>総合福祉資金</th> <th>(延長)</th> <th>(再延長)</th> <th>件数比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西宮市</td> <td>5,250件</td> <td>3,875件</td> <td>1,975件</td> <td>2,558件</td> <td>6.75%</td> </tr> <tr> <td>兵庫県</td> <td>77,142件</td> <td>57,817件</td> <td>29,751件</td> <td>36,995件</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>緊急小口資金</th> <th>総合支援資金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西宮市</td> <td>965,500,000円</td> <td>4,499,580,000円</td> </tr> <tr> <td>兵庫県</td> <td>14,150,008,000円</td> <td>66,419,401,000円</td> </tr> </tbody> </table>		緊急小口資金	総合福祉資金	(延長)	(再延長)	件数比率	西宮市	5,250件	3,875件	1,975件	2,558件	6.75%	兵庫県	77,142件	57,817件	29,751件	36,995件	100%		緊急小口資金	総合支援資金	西宮市	965,500,000円	4,499,580,000円	兵庫県	14,150,008,000円	66,419,401,000円
	緊急小口資金	総合福祉資金	(延長)	(再延長)	件数比率																							
西宮市	5,250件	3,875件	1,975件	2,558件	6.75%																							
兵庫県	77,142件	57,817件	29,751件	36,995件	100%																							
	緊急小口資金	総合支援資金																										
西宮市	965,500,000円	4,499,580,000円																										
兵庫県	14,150,008,000円	66,419,401,000円																										
② 社協内外の相談支援機関との連携、相談支援体制の充実にむけた体制整備	<p>② くらし相談支援課権利擁護係に生活福祉資金専従職員を配置して体制整備を行った。特例貸付終了後も困窮状態が続いている人からの再貸付や免除・猶予の相談をはじめ様々な問い合わせに対し、その状況に応じて福祉サービスや支援機関につなぐなどの相談対応を行った。</p>																											

◆ 障害者相談支援の推進

青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①本人中心の相談支援の実施	<p>① 利用契約者数：125人 [123人] 内訳：青葉園・ふれぼの利用者：56人 [55人] その他の利用者：69人 [68人] 計画及びモニタリング：482件 [482件] 内訳：更新・新規計画：145件 [168件] モニタリング：337件 [314件]</p>
②地域での暮らしの確立とその継続のための支援	<p>② 各会議、必要時の連絡を通じて各事業所、医療機関、ケアマネージャーなどと連携し、利用者の地域での暮らしの支援を行った。</p>
③社協内部署や他機関との連携	<p>③ 基幹型相談支援センターとの連携のもと、必要に応じて契約を行った。 ・地域自立支援協議会（しごと部会・地域移行連絡会・あんしん相談窓口連絡会）に参加、あんしん相談窓口連絡会では事例発表をおこなった。</p>

◆ 社協内連携から社協外（行政等）との協働構築にむけた推進とその活動検証

共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①包括的支援体制の構築にむけた取り組み	<p>① 各地域における分野を越えた連携体制にむけて、市社協内の相談支援部署が地域支援部署と連携することで、地域への積極的な参画に取り組んだ。 平木地区（定例）：4回 [新規] 北部ネットワーク（打合せ）：1回 [新規] 鳴尾圏域（打ち合わせ）1回 [新規] 安井・大社（打ち合わせ）：2回 [新規]</p>
②行政との協議	<p>② 市担当課と個別支援のコーディネーション機能の検証をおこなうため、狭間の相談や複合家庭への支援検証をおこなった。 令和5年度開始にむけ多機関協働事業についての協議もおこなった。 全市域のセーフティネット体制（打ち合わせ）：2回 [新規]</p>

推進目標Ⅲ <地域や人への思いを育む土壌を広げる>

◇ 多様な学びの機会を広げる活動展開～共生のまちづくり研究・研修所機能の強化等～

共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①共生のまちづくり研究 研修所定例会・運営委員会・部会	①・定例会：概ね月1回 [月1回] ・運営委員会：1回 [2回] ・研修部会、研究部会を新規に設置し、それぞれで具体的な協議をおこなった。
②福祉啓発情報交換会の開催	② 3/24、6課7名 [新規] 内容：各課(係)の福祉啓発に関する取り組みについて情報交換
③「みやっこまなびラボ」 (市民向け講座)の開催	③ 全3回延べ142人 10/15、11/19、12/17 [全3回延べ187人] 「子育てしながら始める取り組み」「コーヒー」「子ども支援」をテーマに掲げてゲストトークをすることで、興味・関心のある地域住民の参加を促進した。

◇ 福祉学習、認め合う場づくりの推進

地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①学校の福祉学習支援	①・学校での福祉学習実施に対して、福祉学習の器機の貸出及び福祉学習実施への相談支援、及び当日の指導等を行った。 福祉学習（車いす等の説明）8校（小学校7校・中学校1校） [10校] 福祉機器の貸し出し件数：延べ83回 [延べ34回] ・小学校・中学校の新入教員への福祉学習の説明等を実施
②市行政や社協内部署および福祉施設等と連携した取り組み	②・西宮市の新入職員への「障害のある人への関わり方について」「アイマスク体験や車イス体験」を実施。 ・市社協内の障害者スポーツ事業係と連携して取り組んだ。 ・中学校での福祉学習実施の際、校区内の福祉施設と共同して取り組んだ。

◇ 障害者理解促進事業 あいサポート活動

地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①西宮市あいサポーター養成講座の企画及び実施	① 西宮市あいサポーター養成講座 市・市社協主催開催：4回90人 [3回76人※市社協職員向け] 依頼による開催：34回843人 [14回529人]
②あいサポート運動推進検討会等の運営	② あいサポート運動推進検討会：3回 [4回] 新人メッセージの育成
③広報・啓発活動	③・あいサポート運動啓発映像の作成（fromにのみや） ・市広報媒体の活用（生涯学習企画課「にのみやシチズンカレッジ」、公式LINEでの講座案内） ・企業向けアンケートや福祉作品コンクール（市障害福祉課）、輪伊和スポーツひろば（西宮市ノーマライゼーション推進協議会）であいサポート運動の紹介（カードやキーホルダーの配布）

◇ 多様なボランティア活動の推進

地域福祉課・共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①オンラインを活用した活動の場づくり	① コロナ禍で施設等での活動が難しいため、オンライン（ZOOM）を活用し、施設等とつないでレクリエーションを提供:5回実施 ※10月からの新規取り組み
②ちょいボラによる気軽に活動に参加できる機会づくり	② 気軽に参加できる3つのちょいボラ活動（使用済み切手の整理・地域清掃・エコ封筒づくり）を実施したところ、様々な世代の参加があった。（延べ521人）また、通信制の高校生をサポートする学校からの相談を受け、実際に生徒が参加することで社会とつながる機会となった。

◆ 地域づくり推進にむけたつなぐ人材、専門職の育成活動

共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①共生型交流拠点代表者会議、プレ拠点ツアーの実施	① 代表者会議：2回（5/30・12/14）[1回] 交流拠点の開設状況・相談等 プレ拠点ツアー：1回（12/12）[新規] 拠点見学ツアー
②地域診断研修の実施（専門職対象）	② 地域診断研修：全2回7/29・2/28 [2回] 地域包括支援センター・社協地域支援部署職員等を対象に「地域の理解をすすめるための専門職向け研修会」として市と協働実施

◆ 権利擁護活動の展開

共生のまちづくり推進課・くらし相談支援課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①障害者差別に関する相談対応と差別解消にむけたしくみづくり	① ・障害を理由とする差別に関する相談及び対応件数：1件 [3件] ・権利擁護に関する相談及び対応件数：49件 [49件] ・差別解消にむけた対応マニュアルの作成と啓発活動を行政と協働して行った。 ・職員が日常的な支援業務の中で表面化されていない「差別」への気づき向上を高めるために、基幹相談支援センター内に目安箱を設置した。 ・当事者、障害福祉課と地域自立支援協議会とも連携し、バリアフリー展にて「障害者差別解消について」「あいサポート運動」について普及啓発を行った。

◆◇ 市社協・地域活動者の情報を伝える力の強化

共生のまちづくり推進課・地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①オンラインつどい場開催支援	① コロナ禍や高齢になり「つどい場」に來れなくなった方と活動者がつながる手段として「オンラインつどい場」を開催するための活動支援、スタッフ向けオンライン関連研修を実施
②VC公式LINEでの情報発信	② ボランティア活動など関心のあるLINE登録者へ、タイムリーに活動情報などを配信した。LINEから新たな活動者につながった。

◆ 情報を受け取る権利を守るための取り組み推進

地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①多様な媒体での広報	① 講座やボランティア募集など、様々な受け取る場を想定するとともに、勤労者や学生等も含めた多世代に伝わる手法としてチラシ、ホームページ、広報紙、LINEなど多様な媒体を活用し情報発信を行った。
②各種講座での情報保障の整備	② 主催講座等において手話や要約筆記の対応を調整し、「情報保障対応あり」と広報することで聴覚に障害のある方の申し込みがあった。

先導的取り組み <「共創」による「共生のまちづくり」の拠点づくり>

◇ 共生のまちづくり拠点整備の推進

青葉園事業課・地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①北部地域の青葉園・ふれぼの通所者と地域住民が連携した拠点確保	① J Aの空き店舗を活用したコープこうべと連携した北部の拠点づくりにむけて協議・検討を行った。北部で暮らす青葉園・ふれぼの通所者の活動場所としての検討とともに、北部地域の共生拠点としての活動展開について、社協内や市行政とも協議しながら、具体的にすすめていく予定である。
②西波止会館の活用に向けた住民交流イベントの企画	② 令和5年5月のイベント実施にむけて内容の企画や関係者への説明、西波止会館運営委員会での協議を行った。

◆ 地域共生館ふれぼの実践と全市普及展開にむけた取り組み

共生のまちづくり推進課・青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①公営住宅での出前カフェ	①1回（11/15）23人 [新規] 高齢化が進む公営住宅で地域住民と協働して出前カフェを実施。ふれぼのまで歩いて来にくい高齢者や建て替えにより新たに公営住宅の住民となった人の参加もあり、住民同士が知り合う機会にもなったと好評であった。
②ふれぼの実践とりまとめ	②共生のまちづくり研究・研修所における新たな研究部会の中で、研究所メンバー以外の職員や関西学院大学院生を加えた協議を概ね月1回開催 [新規]

◆ 障害のある人の地域自立生活支援

青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①青葉園・ふれぼの通所者の自立プログラム実施	①自立プログラム：27泊 [30泊] 新型コロナにより、泊数を減らして実施した。当初予定90泊
②個別的支援（居宅支援）の量的、質的拡充	②居宅介護・重度訪問介護事業所青葉園 利用契約者：12人 [10人] 重度訪問 介護年間実績：12,427時間45分 [12,524時間]
③ふれぼの自立生活準備室での地域自立生活支援の展開	③ふれぼの自立生活準備室利用者：3人（延べ4人） [10人] 昨年度までは数日間の体験を目的とする方が多かったが、今年度は実際の自立生活の前段階としての利用のため、長期間利用の傾向がみられた。また、2つの準備室が常に利用されている状態でもあった。
④最期まで地域自立生活を続けられるような住まいの確保	④整備された住まいの新たな確保には至っていない。青葉会とも連携し、地域自立地域自立生活に必要な住まいの確保について引き続き検討していく。

重点取り組み <子どもたちと共に創り出す「共生のまち」>

◆ 地域共生館ふれぼのにおける子どもの居場所活動とその全市普及展開

共生のまちづくり推進課・青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①地域共生館ふれぼのにおける子どもプログラムの実施	① 地域活動センターふれぼのと協働し、「夏休み子ども向けプログラム」や「クリスマス会」「ふらっとパーク」等を実施した。
②子どもの居場所活動の全市普及展開	② ふれぼの通信等の広報媒体を活用し情報発信を行った。 新型コロナの影響もあり、全市普及展開までは至っていない。

◆◇ 子どもたちの声を聴く機会づくりや関係団体等との連携促進

地域福祉課・共生のまちづくり推進課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①子ども対象の講座やイベントの実施	①・小・中・高・大学等（トライやるウィーク・福祉学習・選択授業）での認知症サポーター養成講座実施：12校1,294人 [14校708人] ・私立高校でのあいサポーター養成講座実施 1校86人 [1校64人] ・西宮市ノーマライゼーション推進協議会（市社協事務局）でのパラスポーツとゆるスポーツ体験会およびワークショップの実施 体験会：59組183人 ワークショップ：11組19人 [新規]
②子ども参画のプログラムづくり	② 2/25開催の西宮市自立支援協議会イベント「ごちゃませ縁日」で子どもの思いを表出した絵を描くコーナーを設置、その絵は縁日実施後にふれぼので展示した。

◆ 課題のある子どもや世帯への支援強化

育成センター事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
① 社協内相談支援部署との連携	① 子どもの特性により専門的な対応が必要なケースについて、障害者総合相談支援センターと連携し、相談員が育成センターでの児童観察から指導員への助言や、保護者へのアプローチを行った。
② 行政機関、専門機関との連携及び個人支援会議等への参加	② 相談支援事業所等による支援会議等について、それぞれ関係機関からの要請により各育成センター指導員が随時参加した。また、学校との連携が必要なケースについて、随時各育成センター指導員が学校と情報共有及び意見交換を行い、ケースによっては指導員アドバイザーを中心に事務局職員も加わり連携強化を図った。
③ 要保護児童への対応強化	③ 西宮市要保護児童対策協議会代表者会議に法人として参加。虐待事案等では市子ども家庭支援課と連携し、育成センターでの児童の様子や指導員が会話から聞き出した家庭での様子等、気になることがあれば早急に連絡し、対応した。
④ 支援事例記録整理	④ 課内では児童等ケース記録を徹底し共有をはかった。今後相談支援部署との連携のための情報共有の仕組みについて検討をすすめる。

関連推進事項 ○基本事業

◇ 多様な人や団体とのつながりを通じた小地域福祉活動の推進 地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①地区社協会長会議の開催	① 地区社協会長会議を開催し、各地区の取り組みについて情報交換や、多様な人や団体とのつながりを意識するための地域診断の演習などを行った。 4回（4/26・6/30・9/27・2/27）[4回（書面開催含む）]

◆ 地域活動センターの運営 青葉園事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①地域活動センター青葉園、地域活動センターふれぼの運営	①・地域活動センター青葉園：4月に新通所者を2人受け入れ 3月末通所者数：48人 [46人] ・地域活動センターふれぼの：新通所者の受け入れなし 3月末通所者数：23人 [23人] 一人ひとりの個人総合計画に基づき、日中活動・自立プログラム・地域参加活動を実施。通常に戻りつつあったが、依然としてコロナ禍の制限はあった。
②通所者の地域自立生活確立にむけた支援	② 通所者の希望、また生活の状況の変化に合わせ、相談支援事業所とも連携しながら必要な支援について検討を行い、通所者の地域自立生活が滞らないよう支援を行った。
③重い障害のある人への見守り・権利擁護支援の具体化にむけての検討	③ ご家族、後見人、関わりのある他事業所と共に、本人中心支援会議、ケース会議、調整会議など思いを表現することの難しい方の意思確認の場面に立ち合いご本人の意向に基づく健康面、生活面など様々な検討に加わった。その上で、ご本人の思いや希望が支援に反映されるよう努めた。

◆ 西宮市総合福祉センターの運営 総合福祉センター事業課・旧リハビリセンター事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①西宮市総合福祉センターの全体運営	① 感染対策を徹底し、利用制限の緩和と各事業の再開、新規事業の開始に努めた。 利用者総数は昨年度比140%に増加した。 設備改修工事については、本館空調機体の更新工事、別館の給水管更新工事、西側通用口の自動ドア化工事、青葉園訓練室南側引き戸の取替工事等を実施
②文化教養事業・スポーツ事業の実施や集会施設・体育施設の貸室提供	②・集会施設：開所日数：347日 [278日] 利用人数：34,521人 [19,674人] ・文化教養事業（主催教室）：6回 [1回] 車いす貸出：195台 [200台] ・体育施設：開所日数 プール 266日 [231日] 体育室 281日 [239日] トレーニング室 281日 [239日] 利用人数 29,235人 [21,327人]
③視覚障害者図書館の運営	・スポーツ事業(主催教室・事業)：9教室・5行事 全101回 [47回] 1,706人 [876人] ・西宮市総合福祉センターだよりの発行：3回 [0回] ・西宮市総合福祉センター運営委員会：3回 [3回] ③・利用登録者数：196人 [208人] (男98人 [107人] 女98人 [101人]) ・貸出図書：点字 698タイトル [657] テープ 407タイトル [674] デージー 12,443タイトル [14,650]

④リハビリセンターの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読サービス：利用件数 23 件 [16 件] ・スマートフォン体験講習会：5 回開催 [新規] ・製作・受入図書等：点字 160 タイトル [179] テープ 44 タイトル [49] デージー 269 タイトル [305] ・点訳ボランティア研修会：11 回 延べ 247 人 [6 回 延べ 141 人] ・音訳ボランティア研修会：36 回 延べ 355 人 [19 回 延べ 194 人]
⑤利用者ニーズの把握 (アンケート調査)	<ul style="list-style-type: none"> ④ ・開所日数：243 日 [242 日] ・利用人数：13, 084 人 [12, 775 人] 新規登録者数：24 人 [27 人] ・リハビリセンター主催事業：7 回 [3 回] 117 人 [58 人] ・地域リハビリ：1 回 ⑤ ・駐車場利用者調査：7/3～7/31 ・利用者アンケート調査：3/15～3/31

◆ 留守家庭児童育成センターの運営

育成センター事業課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①利用児童の健全育成を図るための様々な取り組みの実施	<p>① 市内 24 カ所の小学校に設置された 51 センターにおいて、放課後や一日開所日（夏休み等の長期休業期間等）に、安全に過ごせる生活の場を提供し、発達段階に応じた集団や個々での適切な遊び等を通じ健全な育成を図るために、業務マニュアルに基づき質の高い保育サービスを提供した。</p> <p>開所日数：290 日 [289 日]</p> <p>在籍児童：2, 153 人 [2, 211 人] R5. 3/1 現在</p>
②季節に応じた行事等を実施	<p>② センター毎で利用児童の希望も取り入れ、趣向を凝らし季節に応じた施設内工事を実施した。施設外行事は、徒歩で移動できる市内の公園などへの遠足などを実施した。</p>
③運営委員会・保護者会の開催	<p>③ 地域や保護者、学校、関係機関と連携、協力して運営できるようにセンター毎に運営委員会を設置し、感染症対策の上、一センター平均年 4. 4 回 [3. 3 回] 開催した。保護者会も感染症対策を講じた上で実施し、日頃の児童の様子や特に長期休業期間の保育について情報提供を行い、保護者との意見交換を行った。</p>

関連推進事項 ○基盤整備事業

◆ 第9次地域福祉推進計画（第9次計画）の推進および進捗管理 地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①計画の推進および進捗管理	① すすめる会議を設置し、計画の総合的な推進に向けて課題や推進方策について委員から意見をいただいた。また、計画推進会議の議論をもとに理事会・評議員会で各事業の進捗点検を行った。 西宮市の担当部局とは地域福祉検討会議を開催。西宮市が策定した地域福祉計画の取り組みとのすり合わせを行った。 ・すすめる会議 2回 10/24・2/17 計画推進会議 1回 10/18 ・地域福祉検討会議 2回 10/20・1/18
②にしのみやフォーラム 2023 開催準備	② 第9次計画を広く周知する機会として令和5年度に開催するフォーラムにむけて、職員と武庫川女子大学生により企画チームを結成、月1回、協議を実施

◆ 地域福祉推進財源の確保と効果的な執行 地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①補助金・助成金のあり方検討	①具体的な検討開始には至らなかった。

◆ 法人および組織基盤の強化 総務課・地域福祉課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①理事会、評議員会、監査会の開催	① 理事会：6回 [6回] 6/8, 9/7, 11/9, 1/11, 1/26（書面表決）, 3/15 評議員会：5回 [5回] 6/23, 9/26（書面表決）, 11/24, 1/26, 3/23 監査会：決算 5/26 中間 11/30 民生委員・児童委員の改選に伴い副理事長が交代となったため、1月に臨時の理事会を書面開催した。
②市との連絡会議の定例開催	② 市福祉総括室長、福祉部長等との定例的な会議で事業進捗、懸案課題や今後の方向性等についての協議を7回実施 [4回] 次年度にむけて「西宮市社会福祉協議会運営連絡調整会議設置要綱」を制定
③職員採用等に関する取り組み	③・採用試験の実施：総合職 7/30（筆記）、8/27（面接等）受験者17人採用3人 追加募集 1/28 受験者4人採用2人 支援専門職 7/30 受験者10人採用2人 総合職（看護師）3/17 受験者1人採用1人 事前説明会 7/6 参加者24人 ・内定者説明会の実施 2/21 内容：入職説明、参加者同士の交流 ・大学生等を対象にしたインターンシップを実施（9/8, 9/15） 参加者：7人 [10人] 内容：組織・業務紹介、社協職員との交流等 総合職と支援専門職の試験日程を同日にすることで、希望する職種にミスマッチがおこらないようにした。全体的には採用試験受験者やインターンシップ参加者が減少している傾向にある。
④広報活動	④ 広報紙「しあわせ」の発行 年4回 [4回] 社協ホームページでの地域活動や青葉園の取り組みなどの定期的な情報掲載 各部署でのSNSを活用した情報発信を実施

◆ 職員の働く環境の整備と資質向上の取り組み

総務課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①職員の勤務に関する規程の整備等	①・国の福祉介護職員処遇改善臨時特例交付金を活用した処遇改善手当の創設と運用開始（青葉園事業課の介護業務にあたる支援専門職、嘱託職員、臨時職員） ・青葉園事業課における夜間待機手当創設に向けた協議（令和5年度から運用） ・出生時育児休業（産後パパ育休）に関する規程の整備：男性取得率目標 20% 男性対象者 2人 取得者 2人 取得率実績 100% [新規カウント] ・全職員が年 5 日以上の年次有給休暇を取得
②衛生委員会の実施	②・毎月 1 回 計 12 回 [12 回] うち、衛生委員以外も参加可能なオープン研修 4 回 [3 回] ・オープン講座として、ストレッチ講座、交通安全セミナー、コミュニケーション研修および生活習慣病予防セミナーを初めて実施。各回とも衛生委員以外の参加者も多くみられ、自身の健康管理や職場でのコミュニケーション促進等に有効であるとの声があった。また、各課・係職員で話し合いながら職場に潜む危険を予知し改善していく KY（危険予知）活動を継続して実施した。
③コロナ禍への対応	③ 前年度に引き続き、オンライン環境整備や時差通勤、自宅待機、コロナワクチン接種および副反応に伴う職専免などのサービス対応をおこなった。
④職員研修等の実施	④ 新入職員研修：入職時 2 日間および月 1 回全 10 回実施 参加者 9 人 [11 人] 広報研修：11/8 参加者 41 人 [新規] 「広報の言葉をつむぐ」講師：きかんしコム 岡本和也さん 他部署研修：1～3 月 参加者 6 人 [新規] 社協内の他部署を 1 日体験することで、自身の業務や組織内連携に役立てることを目的に実施 その他：第 9 次計画、あいサポート研修等を職員対象に実施 社協ホームページに職員専用ページを新しく創設し、タイムリーな外部研修案内や各種情報提供等を開始した

◆ 災害時に機能する体制づくり

全課

取り組み内容	実績・実施内容（実施日・参加者数他）等 [] は前年度実績
①災害ボランティアセンター運営ワーキングの開催	① 災害ボランティアセンターの円滑な運営が行えるように行政、NPO と検討会を実施。災害ボランティアセンターの候補地や感染症対策を盛り込んだマニュアル改訂について協議を行った。 6 回実施 [コロナ禍により未実施]
②災害ボランティアセンター運営訓練の実施	② 災害ボランティアセンター立ち上げ時に円滑に運営ができるように地域福祉課職員、登録災害ボランティアを中心に訓練を行った。訓練の中での感染症対策を意識し、オンラインの活用や密を避ける空間づくりなどを取り入れた。